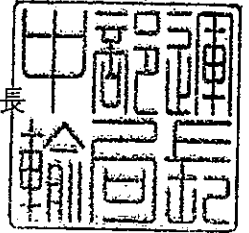


資料 1

中運交企第 4 号
平成 30 年 4 月 27 日

半田市長（半田市地域公共交通会議） 殿

中 部 運 輸 局 長



地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果の通知について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領に基づき実施した二次評価等の結果を別添
のとおり通知します。なお、評価結果については、各協議会等において積極的に公表さ
れたい。



調査事業（計画策定事業）事業評価要約版（29年度）

| | | |
|-----------|--|---|
| 支局 No. | 自治体・協議会名 | 二次評価 |
| | 事業概要 | |
| 愛知 1 | 自己評価 | <p>今回の調査により地域住民のニーズ把握や主要集客施設、高校生のアンケート調査により得られたデータの蓄積を分析することにより、ネットワークの形成に向けて路線毎の役割を明確にすることができたものと認識しています。</p> <p>今後、更なるデータを分析し、地域と協働で利用促進を図るとともに網形成計画を策定し、公共交通ネットワークの構築を期待します。</p> |
| | 半田市地域公共交通会議 | |
| | <p>半田市では、総合的かつ効率的な公共交通体系の構築が急務となっており、市が目指す将来都市構造の構築を支援する公共交通ネットワークの再編に向け、地域住民が乗りたくなる地域公共交通網の形成を目指し、半田市地域公共交通網形成計画策定のため調査を実施。</p> <p>○地域内の公共交通に関する現況調査 主要集客施設において、利用交通手段や利用割合、バスが利用可能となる条件などを把握。また、生徒の大半が自転車通学している高校と駅から近いが坂の上にある高校の生徒等に対して、通学手段やバスの利用条件、利用意向などを把握。</p> <p>○地域住民ニーズ把握 新たな公共交通網を構築する市の方針を伝え、市民から公共交通に関する意見などを聴取。</p> | |
| | <p>・半田市が目指すまちづくりや各種ニーズ調査等から得られた結果を踏まえ、半田市の地域公共交通に関する課題を抽出するとともにその対応を進め、パブリックコメントを経て、第4回公共交通会議(3月)で協議し計画を取りまとめる予定。</p> | |

| | | | | |
|---------------------------------|--|--|--|--|
| <p>半田市 (半田市地域公共交通会議) (計画策定)</p> | <p>A 委員</p> <p>◆計画策定が遅れているため、最後までめどめられようにして欲しい。市民の意見ばかり聞いてまともな意見が聞かれない心配する。</p> <p>◆中部様式5ページ：経費を増額しても公共交通に取組むべきという意見の割合が高いのは珍しいケースである。これをブレッシュヤーと捉え市民の期待に応えて欲しい。</p> <p>→(市)現在の補助額の5倍までは投入できると判断している。</p> | <p>B 委員</p> <p>◆13小学校区をすべて回り講演し、色々な議論を重ねた。最初は市民も市役所がやるべきという態度であったが、段々変わってきている。今後の取組みに期待して欲しい。</p> | <p>C 委員</p> <p>◆月に1回以上バスに乗りたくなくなる取組みについて、緊張感を持って取組むためにもどの程度利用すれば路線を継続できるかなどの目標を市民にも提示した上で取組んで欲しい。</p> <p>◆市民の意見を聞くことは必要だが、単に声の大きい人に影響されないように留意して欲しい。</p> <p>→(市)本市では、議会で公共交通条例を制定したという経緯もあり、議会でもきちんと説明してきている。10月に向けて、おでかけしやすいバスにしていきたい。</p> | <p>運輸局</p> <p>◆今後も武豊町と連携しながら進めて欲しい。</p> <p>◆公共交通空白地域について調査しているため、再編実施計画策定のために効率的な再編にこだわらず、制度のために利便性を落とすようなことはしない方がよい。</p> <p>→(市)計画策定が目的ではなく、市民の足を守ることを目的に取組んでいきたい。</p> |
|---------------------------------|--|--|--|--|

| | A 委員 | B 委員 | C 委員 | 運輸局 |
|----------------------------|---|---|---|---|
| <p>◆ 東海・半田・大府・常滑・美浜交通圏</p> | <p>◆ 県バス対策協議会でも議論があり、空港やりんくう開発、周辺の集客施設とも関係するため、周辺市町と一緒に対応について検討して欲しい。</p> | <p>◆ 常滑南部線は、以前からずっと利用が低調で廃止の話も何度も出されている。常滑市は空港もあり、半田市からの路線もあるため、要となる都市であるが、県としてはどのように考えているのか。 → (県) 常滑A線はC評価となっており、10回運行して何とか維持している状態である。りんくう開発、常滑市民病院の移転により、知多バスが色々取組んでいるが病院行きは成果が出ている一方、りんくうについては成果が出ていない。そのため、常滑線は減便になる。平均乗車密度は増加しているため、効率性は上がっている。 ◆ 横須賀A線は非常に危険な状態である。 → (県) 横須賀B線廃止にも係らず、平均乗車密度が落ちており、沿線市町にも働きかけをしている。 → (B) 横須賀線は議論の場があるが、常滑市は地域公共交通会議がないため、知多バスが色々取組んでも市民には伝わっていない可能性がある。</p> | <p>◆ 愛知県の資料は全体的に見づらかったため、交通圏ごとに資料を整理した方がよい。これはここで説明をするためだけでなく、交通圏という括りで地域公共交通の現状を把握するために県にとっても有益な作業となることが期待される。</p> | <p>◆ コミュニティバスの地域間幹線がある。地域間幹線補助については、仙都市へのアクセスの幹線性と交通事業者に対する補助制度であることを理解して欲しい。県バス対策協議会でも議論して欲しい。</p> |
| <p>刈谷・安城・碧南・西尾交通圏</p> | <p>◆ 桃山線について、月15人しか越境利用がないのか。 → (県) 市を跨ぐ利用はないと交通事業者からも聞いている。</p> | | | |
| <p>その他交通圏</p> | | | | |